

## 令和6年度 学力向上プラン

学校名 月島第二小学校

学校の教育目標

心の豊かな子ども・よく考える子ども・たくましい子ども

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

- ・基礎学力を確実に身に付けさせるとともに、一人一人の習熟度に応じて学力を伸ばす指導を行う。
- ・児童自ら課題を発見し、主体的に問題を解決する力を身に付けさせる。

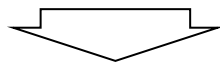
令和5年度「学習力サポートテスト」や令和5年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	6年生の学習力サポートテストでは、全体的に区の平均の正答率よりも下回っている結果となった。特に「言葉の学習」についての理解が不足している。「和語・漢語・外来語についての理解」においては、正答率が区平均に比べて9.9ポイント、「文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使う」においては、区平均の7ポイント下回っている。	言葉の学習では、語句の成り立ちや変化、漢字の由来や語源、和語・漢語・外来語に触れる機会が少なかったことが考えられる。また、文脈に沿った漢字を適切に使えるように、普段使っている言葉にそれぞれの特徴と意味を考えさせ、言葉への理解と興味をもたせることが必要である。
算数・数学	4、6年生の学習力サポートテストでは、全体的に区の平均正答率よりも、下回っている結果となった。6年生からは、基礎よりも活用に課題が見られた。特に「変化と関係」の領域において、5.4ポイント低く、表から面積と人数の割合を求め、混み具合を考察するのに課題があることが分かった。その一方で、4年生は活用より基礎に課題が見られた。どの領域も2ポイントほど区平均を下回っている。基礎基本の定着が十分でないことが分かった。	4、6年生は、どの領域も区の平均を下回っていることから、学習の基礎基本の定着が足りないことが主な要因として考えられる。6年生においては、活用問題に対する正答率が低いため、授業で学んだことを反復し、活用する問題にも対応できるようにしていく必要がある。
社会	4、6年生の学習力サポートテストでは、全体的に区平均正答率よりも下回っていた。特に、複数の資料から分かることを読み取ったり、活用したりする問題に苦手傾向が見られた。5年生での同テストでは、どの領域も区平均正答率よりも5～7ポイントほど高い。区平均より上回っているものの、「伝統や文化先人の働き」の領域は他領域よりも正答率が20ポイントほど低い結果となっている。	どの学年も、基礎よりも活用の正答率が低い傾向が見られる。普段の授業から、複数の資料を読み取る活動を取り入れていく必要がある。6年生のテストでは、「国土の自然」や「工業生産」での正答率が平均を下回っていることから、4、5年生での学習を復

		習する機会を設ける必要がある。
理科	4、6年生の学習力サポートテストでは、全体的に区の平均よりも下回っていた。どの観点でも区の平均を下回っている。特に「知識・技能」は区の平均に比べて大きく下回っていることが分かった。どの学年・学級の正答率度数のグラフを見ても、全体的にプラスの方向に山があるため、区の平均を下回っている児童への、きめ細やかな配慮や補充指導の取り組みとなる個別指導が必要と考えられる。	4、6年生はどの領域も区の平均を下回っている。学習の基礎基本の定着が足りないことが主な要因として考えられる。理解している児童もいるので、交流活動を繰り返し、理解を深めさせ、まとめさせることで、底上げを図る必要がある。
英語	6年生の学習力サポートテストでは、「アルファベットの書き」「英作文」問題において、正答率が目標値よりも6.3ポイント下回っている。聞き取ったアルファベットの音を正確に四線上に書いたり、簡単な語句や基本的な表現を用いて英文を書いたりする力が不足している。	主な要因として、書く活動に慣れ親しむ時間が不足していることが考えられる。年間指導計画を再度見直し、聞いたり話したりして十分慣れ親しんだ語句を書く学習の時間を確保していくために、単元計画の再設計をしていく。
体育・保健体育	都の体力調査では、5年生女子で握力は区平均を2.4ポイント下回っている。また、5年生男子で20mシャトルランは区平均を3.4ポイント、6年生男子で3.3ポイント下回っている。6年生女子は体力合計点が区平均を4.9ポイント下回っている。女子は、力強さに関わる運動特性、男子は運動を持続する能力に関わる運動特性に課題が見られた。	主な要因として、2つのことが考えられた。1つ目は、運動をする機会が少なくなっていること。2つ目に休み時間や放課後に、体を動かして遊ぶ児童の個人差が要因である。体育科の学習で、マイスクールスポーツである「縄跳び活動」を準備運動にしたり、様々な動きのある運動を取り入れたりすることで、持久力の向上を図っていく。

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国語	令和6年度の学習力サポートテストで、区平均を上回るようにする。特に、「和語・漢語・外来語についての理解」や「文脈にあった漢字の理解」など、小単元の学習にも力を入れ、言葉の学習を着させる。
	算数・数学	令和6年度の学習力サポートテストで、区平均を上回るようにする。課題に対して筋道を立てて考え、まとめられるようにする。
	社会	令和6年度の学習力サポートテストで、全領域において区平均を上回るようにする。社会的事象を自分の生活と関連付けて考える力を伸ばしていく。
	理科	令和6年度の学習力サポートテストで、全領域において区平均を上回るようにする。実験・観察活動、デジタル教材の活用を通して、考察する時間を確保すると共に、科学的に追求して意見を交流することで、事象の理解を十分深められるようにする。

	英語	令和6年度の学習力サポートテストで、区平均を上回るようにする。特に、簡単な語句や基本的な表現を用いて自分の思いや考えを書く力が定着させる。
	体育・保健体育	固定遊具を使った運動を取り入れるとともに、体幹の筋力を高める運動を計画的に取り入れていく。また、本校のマイスクールスポーツである「縄跳び活動」を通して、粘り強く続けていく運動を取り入れ持久力の向上を図っていく。「なわとび活動」については、全校児童の3割が二重跳びを50回跳べるよう、育成していく。
② 授業改善		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の思考力・判断力・表現力をバランスよく育成していく。</li> <li>・児童の「学校評価アンケート」で「授業の内容がよく分かる・分かる」と回答する児童95%以上を目指す。</li> <li>・保護者の「学校評価アンケート」で「分かりやすく楽しい授業をしている」ことに概ね満足と回答する保護者90%以上を目指す。</li> </ul>
③ 家庭との連携		<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭との連携を深め、児童の学力向上に向けた教育活動への理解と協力のもと、より高い学習成果を目指す。</li> <li>・保護者の「学校評価アンケート」で「通知表等を通して児童の学力を適切に評価している」ことに概ね、満足と回答する保護者90%以上を目指す。</li> </ul>
③ 体力向上		<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力調査の結果を個々の児童が上回る育成を目指す。特に全身持久力の向上を目指す。</li> <li>・児童の「学校評価アンケート」で「自分の体力づくりに取り組んでいる」ことにできたと回答する児童90%以上を目指す。</li> </ul>



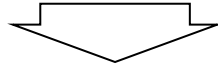
### 【目標達成のための具体的な取組内容】

① 各教科	
国語	復習プリントやドリルパーク等を活用し、個別の学習状況に合わせて反復させることで定着させていく。朝学習の時間の中で週1回「国語科」に特化した日を設定する。既習漢字の定着を目指す。
算数・数学	朝学習や放課後さんすう塾等で、復習プリントや東京ベーシックドリル等活用し、反復させることで定着させていく。また、家庭学習でドリルパークを週2回以上取り組ませ、積極的に活用する。
社会	児童が興味・関心をもてるように掲示物を貼り、都道府県や地形、世界の国土等覚えられるようにする。また、既習事項も確認できるようプリントやドリルパークを活用する。
理科	年間を通して、家庭学習にドリルパークの理科の学習を積極的に活用し、授業で学習して理解したことを定着させる。また、実験・観察する活動と並行してデジタル教材を活用しながら、疑似体験などを行っていく。

英語	単元後の振り返りを共有し、学習の定着を図る。また、既習事項をふまえた学習課題や、既習事項の壁面掲示などをして復習の機会を確保していく。
体育・保健体育	体育の準備運動で固定遊具を使った運動や、持久力を高める縄跳び活動を取り入れることで、体力の向上を図っていく。また、集会やたてわり班活動等、特別活動でも東京都の体力調査の結果を踏まえ、強化すべき体力を焦点化して、体力向上のための環境を整える。
<b>②授業改善</b>	
取組Ⅰ	算数科を中心とした校内研究「児童一人一人が分かった!できた!!楽しい!と実感できる授業づくり」を通して、互いの授業を見合ったり、改善案を話し合ったりして、授業力の向上を目指す。年間を通して単元ごとにレディネステストを行い、コースガイダンスに基づいたクラス分けをすることで児童の習熟度に合わせた指導を行う。課題が見られる児童には、年間を通して、月に2度の「放課後さんすう塾」で補充的指導を行う。
取組Ⅱ	若手教員の授業力向上を目指し、月に1回OJT研修を実施する。若手教員が行った授業について、全教員が出席し協議会を行う。また、主幹・主任教諭が若手から希望のあった領域について研修を行うことで、教員の指導力を養っていく。

<b>③家庭との連携</b>	
取組Ⅰ	年に3回の保護者会と年に2回の個人面談等で、児童の学習状況や努力の様子、課題、進ちょく状況を伝え保護者と共通理解を図る。学習状況を伝える際には、単元毎のテストや学校生活満足調査の結果など根拠となるデータを示し、具体的に説明する。
取組Ⅱ	月に一度、学校便りや学年便りで、学校や学年の取組や学習内容を伝えることに加え、必要に応じて Google classroom を配信したり、tetoru を活用したりして、家庭と連携を図っていく。

<b>④体力向上</b>	
取組Ⅰ	固定遊具を使った運動や体全体を使った投動作、持久力を高めるマイスクールスポーツのなわとび活動、体を大きく動かす遊び等を通して、握力、持久力、基礎的体力の向上を目指す。また、低学年から竹馬や一輪車を使って遊ぶことを通して、バランス力の向上を目指す。
取組Ⅱ	なわとび活動に特化し、定期的になわとび検定を行い、行事・なわとびコンクールを行い、練習の成果を示す場を作る。また年2回のなわとび講習会を受けることで、短縄の技術や体力、運動能力の向上を目指すと同時になわとび活動に更なる興味をもたせる。全学級で長縄に取り組む。長縄週間を毎学期設定し、学期ごとに学級で長縄の記録を取る。また、記録を掲示することで、意欲をもたせる。



### 【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
①学力基盤	国語		
	算数・数学		
	社会		
	理科		
	英語		
	体育・保健体育		
②授業改善			
③家庭との連携			
④体力向上			

①～④の内容の取組結果について、解決策も含めて具体的に記述する。(R7.3月に提出する。)